

一方、県外における鉄製品の鍛冶遺構が発見された主な遺跡をあげると、福岡県須玖唐梨遺跡、赤井手遺跡、大仁手遺跡A地点、長崎県カラミ遺跡、島根県平田遺跡、兵庫県五斗長垣内遺跡・本位田権現谷A遺跡、和歌山県西田井遺跡、京都府奈良岡遺跡、大阪府星ヶ丘遺跡、石川県奥原峠遺跡、愛知県南山畑遺跡などがある。大半は後期の遺構であるが、長崎県壱岐市カラミ遺跡は中期であり注目される（宮本編2013）。また、兵庫県淡路市五斗長垣内遺跡では12棟の鍛冶工房が確認されている。

第3節 善光寺平周辺の弥生時代の遺跡

本節では、南大原遺跡を取り巻く弥生時代の遺跡について概観し、調査成果の理解の一助としたい（第90図）。

善光寺平（長野盆地）から奥信濃の地域では、弥生時代前期～中期前半の時期の遺跡は少ない。中野市川久保遺跡で前期末～中期初頭の条痕文土器が1片出土しているものの、善光寺平北部から奥信濃地域では弥生中期前葉以前の遺跡はほとんど確認されていない。善光寺平南部の長野市春山B遺跡・篠ノ井遺跡群・塩崎遺跡群、千曲市屋代遺跡群・力石条里遺跡群や、山間部の高山村湯倉洞窟などで遺跡が確認されている。

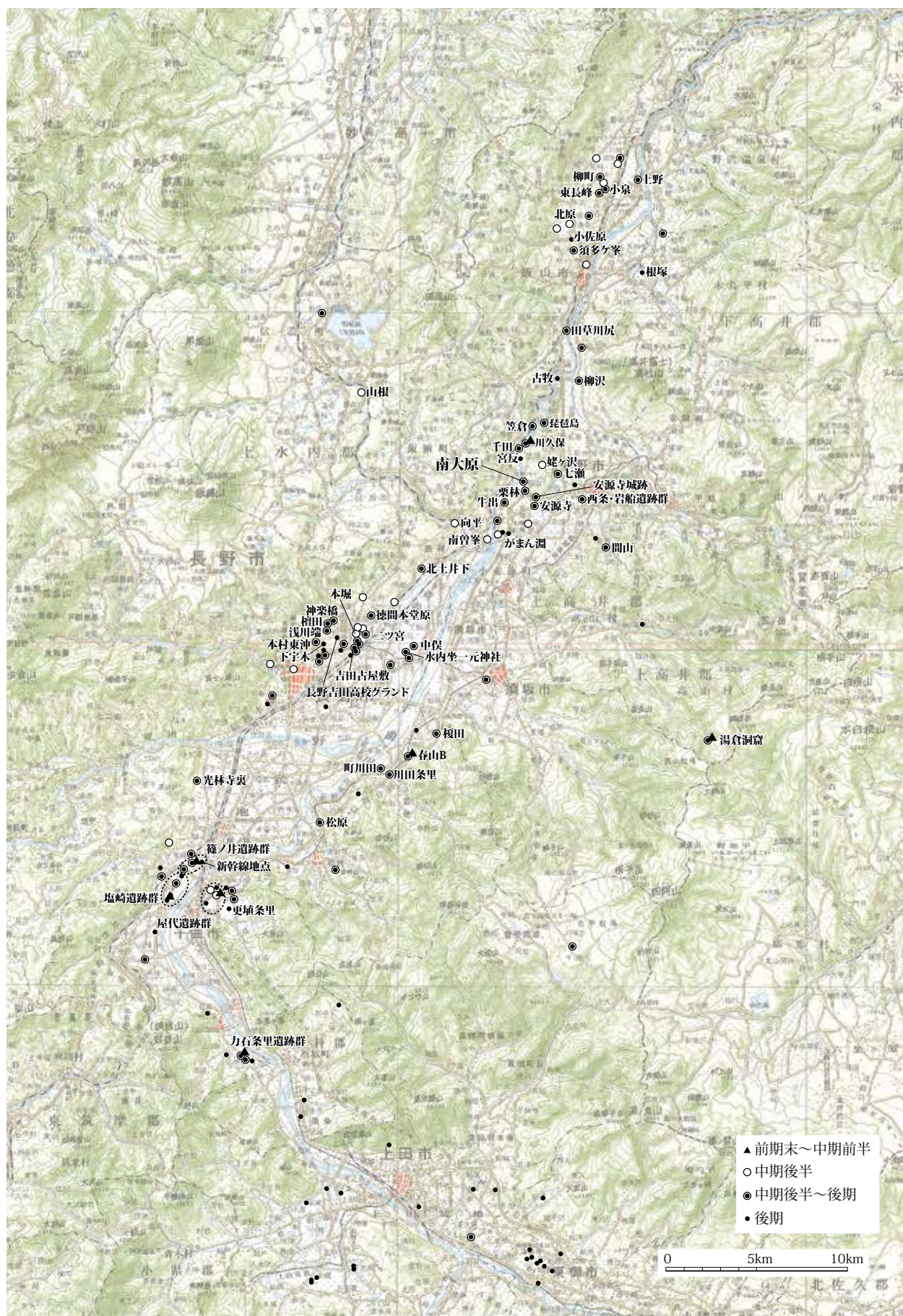
中期後半（栗林式）から後期（吉田式、箱清水式）になると千曲川の自然堤防上や千曲川の支流が形成する扇状地や、盆地縁辺部の丘陵地帯に集落跡が多数確認されるようになる（註7）。これらの遺跡はいくつかのまとまりを示しており、笹澤浩氏は、これらを遺跡群としてとらえている（笹澤2008・2009）。

千曲川下流域で中期後半（栗林式期）の主な集落遺跡をあげると、飯山市の北原遺跡（旭町遺跡群）、小泉遺跡、上野遺跡、中野市柳沢遺跡、琵琶島遺跡、向平遺跡、栗林遺跡、牛出遺跡、安源寺遺跡、姥ヶ沢遺跡、西条・岩船遺跡群、長野市中俣遺跡、浅川扇状地遺跡群（檀田遺跡・本堀遺跡・二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡・浅川端遺跡・徳間本堂原遺跡・吉田古屋敷遺跡）、榎田遺跡、春山B遺跡、松原遺跡などの集落跡が認められる（註8）。多くの遺跡では、竪穴住居跡が検出されているが、松原遺跡、琵琶島遺跡、栗林遺跡では平地建物跡と推定される周溝などが検出されている。なお、栗林遺跡、南曾峯遺跡、北土井下遺跡では、環濠と推定される溝が確認されている（註9）。また、山間部では、信濃町山根遺跡、中野市川久保遺跡、高山村湯倉洞窟で竪穴住居跡などの居住の痕跡が確認されている。

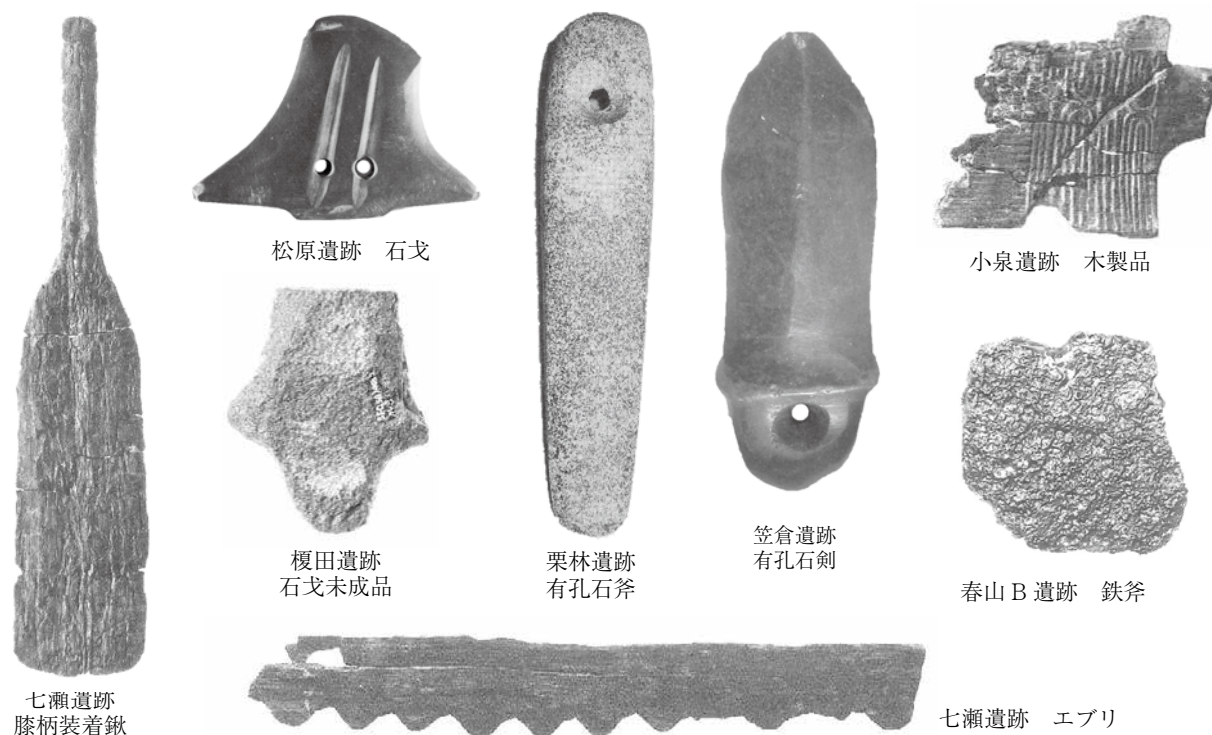
集落遺跡では墓域が隣接しているものがあり、土坑墓、木棺墓、礫床木棺墓などが確認されている。飯山市小泉遺跡、上野遺跡、中野市柳沢遺跡、栗林遺跡、長野市松原遺跡、徳間本堂原遺跡などでは礫床木棺墓・木棺墓群がみつまっている。礫床木棺墓は長野県を中心とした中部高地に特徴的な墓制で、特に柳沢遺跡では礫床木棺墓群の中に、県内最大級の礫床木棺墓（1号礫床木棺墓）が発見された。銅戈・銅鐸が出土した青銅器埋納坑の存在と合わせて、1号礫床木棺墓の被葬者は「青銅器を埋納した集団の首長」と考えられている（長野県埋蔵文化財センター2012）。また、榎田遺跡、松原遺跡は太型蛤刃石斧の生産と広域流通に関わる遺跡として評価されている（註10）。

中野市七瀬遺跡、柳沢遺跡、川久保遺跡、長野市川田条里遺跡では弥生中期後半から後期の水田跡の存在が確認されており、当該期の千曲川流域での水田耕作の様子も徐々に明らかになりつつある。また、中野市川久保遺跡では千曲川に面した微高地の縁辺部に、完形の栗林式土器が群をなしてまとまって多数出土した特殊な遺構が発見されている（長野県埋蔵文化財センター2013）。

なお、以下の希少な遺物が出土しており、善光寺平から奥信濃の栗林式文化を研究する上で重要な資料となる。金属製品では、本遺跡や長野市春山B遺跡・光林寺裏遺跡の鉄斧がある。木製品では中野市七瀬



第90図 善光寺平周辺の弥生時代の遺跡



第91図 弥生時代中期の木製品・鉄製品・特殊な石器（縮尺不同）

遺跡、長野市川田条里遺跡、千曲市更埴条里遺跡などの農具、飯山市小泉遺跡の流水文が刻まれた板状の炭化木製品、本遺跡の器種不明の板状木製品がある。また、石戈、有孔石剣（註11）などの特殊な石製品が中野市笠倉遺跡、栗林遺跡、長野市松原遺跡などで出土している（第91図）。近年の発掘調査により、善光寺平を中心とした弥生時代中期社会の解明に必要な新資料が次々に明らかにされている。

後期では、千曲川沿いの丘陵や川岸、千曲川に流れ込む河川の扇状地上に多数の集落跡が確認されている。飯山市の田草川尻遺跡、小佐原遺跡、東長峰遺跡、中野市栗林遺跡、安源寺遺跡、七瀬遺跡、宮反遺跡、千田遺跡、川久保遺跡、古牧遺跡、西条・岩船遺跡群、間山遺跡、長野市の浅川扇状地遺跡群（檀田遺跡・二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡・長野吉田高校グランド遺跡）、小島・柳原遺跡群（水内坐一元神社遺跡他）、神楽橋遺跡、下宇木遺跡、榎田遺跡、春山B遺跡、町川田遺跡、松原遺跡などである。

中野市がまん淵遺跡では、北陸地方に見られる斜面に環濠をもつ高地性の防御的集落が確認され、長野市篠ノ井遺跡群、水内坐一元神社遺跡の平地の環濠集落とともに注目される。また、中野市安源寺遺跡の土坑墓群、飯山市須多ヶ峯遺跡、長野市春山B遺跡、篠ノ井遺跡群（新幹線地点）などで方形周溝墓群などの群集する墓が確認されている。一方、本遺跡から北東へ15kmの木島平村根塚遺跡では弥生後期の単独で独立した墳丘墓があり、隣接地から韓半島との関わりを示す渦巻き文様のある鉄剣が出土している。

第4節 弥生時代中期後半の南大原遺跡

善光寺平周辺では、千曲川流域を中心に、弥生時代中期後半の発掘調査資料が蓄積されてきた。近年、千曲川上流の佐久地域における発掘調査資料の蓄積も見逃せない。中期後半の栗林式土器文化圏の資料蓄積はここ十数年で質量ともに飛躍的に大きくなった。栗林式土器文化圏外における搬入品・模倣品としての栗林式土器の資料も増加してきている。栗林式土器文化を考察するに十分な資料がそろいつつある